

護國神社

宮崎縣護国神社は、1868 年の明治維新以来、戦死した軍関係者の御霊を祀る全国 52 の神社のひとつです。そのような神社の最初のものは、東京招魂社（現在の靖国神社）で、明治維新をもたらした内戦で天皇に仕えた人々を慰霊するため、1869 年に建てられました。その後ほどなくして、天皇の勅令により全国に同様の神社が創建されました。さまざまな藩主が治めた数多くの藩を統合してできた宮崎県の土地柄のため、地元の合意に至らず、宮崎に戦没者を祀る神社を建てる動きは 1940 年代初頭まで遅れました。第二次世界大戦中に死者数が増加し、神社建設が始まりましたが、日本が降伏して戦争が終わった 1945 年 8 月時点でも、建設はほとんど着手されていませんでした。その後連合国による占領で建設は中止され、1952 年に占領が終了した後の 1955 年、ついに宮崎縣護国神社が完成しました。神社は現在、宮崎で生まれた 4 万人以上の人々の御霊を称えています。戦没者の家族から寄贈された所持品その他が、神社の境内の小さな博物館に展示されています。